

あのとときの常呂・写真館

VOL 30

(1963年)

昭和38年9月10日 常呂町農協デパート開店



▶「農協50年史」から農協デパートの歴史を紹介します。

*前身は、昭和33年に旧精米所を改装し、生産資材店舗と同居していた購買店舗。

*組合員農家の消費水準の向上や生活様式の都市化から購買店舗を新築し、農協デパートとしてオープンしました。

*建物は、鉄筋コンクリートの2階建て（一部地下1階）、総面積845㎡、売り場面積670㎡。1階はスーパーマーケット、2階は衣料品・文具・電器製品のほか、理美容室・食堂も配置。

*組合員からの要望で営業時間を季節によって変えたり、年に一度は北見管内農協との共催で京呉服の展示販売を温根湯ホテルで開き、貸し切りバスを出して招待するなどのサービスもしていました。

*年間売り上げは、オープン当初の8千万円程度から5年後の42年には2億円に増加しています。



▶左上2枚は、年末年始大売り出しの店舗正面。

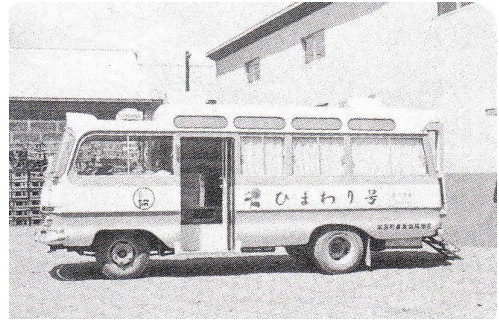
▶左はAコープチェーンに加盟した昭和44年以降の店舗。（「Aコープところ」の看板設置はもっと後だと思われます）

▶昭和36年6月に、巡回販売用の外販車「ひまわり号」(マイクロバス改造)を月2回の割合で地域内を運行させています。品目は、一般食料品・日用雑貨・青果・鮮魚など。部落懇談会で出た要望に即した販売をしていましたが、自家用車の普及・道路の整備とともに利用する農家が減り、昭和51年に廃止しています。



*左：2代目
昭和42-45年

*右：3代目
昭和45年7月
-51年



▶農協デパートは、昭和44年にAコープチェーンに加盟し、仕入れコストと管理コストの引き下げや労働生産性の向上、パールライスのようなブランド商品づくりに努力しましたが、町内の消費人口の減少や北見・網走に進出した大型店との競争から、平成元年に経営統合の一環として廃止し、佐呂間町吉野商店に売却しています。



*上の左右2枚は、昭和50年頃の農協デパート1階のスーパー。

*左は昭和45年9月の常呂高校の仮装パレード。農協デパート(Aコープところ)周辺の雰囲気があります。